研 修 会 報 告 書

令和７年１１月

総務文教常任委員会

１　研修日時
令和７年１１月４日（火）午後１時３０分～午後３時３０分

２　場　　所
加東市役所　５階　第１委員会室

３　講　　師
姫路大学教育学部こども未来学科教授　　長　谷　浩　也　氏

４　研修テーマ
『読書の実態および読書教育の動向』

５　個人報告書
以下のとおり

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員長　藤　尾　　潔

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「読書の実態および読書教育の動向」 講　師：姫路大学教育学部こども未来学科 教授 長 谷 浩 也 氏
日　時	令和７年１１月４日（火）　午後１時３０分～
場　所	加東市役所　第１委員会室
研修の感想	長谷先生は小学校で教鞭を取られた後姫路大学教授として活動しておられ、また行政での教育関係の外部委員も務められている。 そのご経験から、講演の前段については読書活動が国語を含め学力に影響を与えることをデータも踏まえご講演いただいた。その中で、読書活動が語彙力、集中力に影響を及ぼし、累積して影響を与えることが示された。子どもに対してスマホやゲームを禁止することはできないが、読書活動の楽しさを伝えていくなかで、多くの児童が読書に関心を持ってもらえればと思う。 後段については、現在策定中の読書活動の推進に関する条例について講評いただき、他市の事例も参考にしながら、こどもの読書活動や読書バリアフリーについての記述が具体的でないのでは、との指摘を受けた。これに関しては、当方もそれを踏まえて上で議員立法であるため、法の趣旨に従った取り組みを求めているので、その旨ご回答した。 ただ、県の子どもの読書活動推進計画の策定委員をされている立場からは、加東市でも計画を策定してほしいという思いを持たれていることがよく分かった。条例をベースに、計画策定につなげていければと思う。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会副委員長　大久保　忠　義

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「読書の実態および読書教育の動向」 講　師：姫路大学教育学部こども未来学科 教授 長 谷 浩 也 氏
日　時	令和７年１１月４日（火）　午後１時３０分～
場　所	加東市役所　第１委員会室
研修の感想	講演を通して、子どもたちを取り巻く読書活動の情勢の変化と現状がさまざまな資料をお示しいただき理解ができました。また、多様な読書機会の確保や環境の整備も必要であると感じた。 このデジタル社会の中でも、子どもの頃は本と接する機会がまだまだ多く、この楽しさを大人も含めてもっと広める事ができればと感じた。読書への関心を深める取り組みが大事であり、一番有効的なのは人から人への魅力やその本の面白さを伝える事なのだと知りました。そのためには、裾野をしっかりと広げながら地道な活動も大切だと感じました。 専門的でありながら、時々、客観的な個人の感じ方なども交えて講演をいただきました。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員　長谷川　幹　雄

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「読書の実態および読書教育の動向」 講　師：姫路大学教育学部こども未来学科 教授 長 谷 浩 也 氏
日　時	令和７年１１月４日（火）　午後１時３０分～
場　所	加東市役所　第１委員会室
研修の感想	講師先生からの多可町図書館の素晴らしさの話しや多可町小学校・中学校の話しのなかで、タブレットで本を読むことや、段ボールで作られたブックスタンドや読書手帳など、お金をかけないで工夫しながら読書に親しめるように取組まれているとのことであった。 本を読まない子供が増えているとのことで、ピンポイントの支援が必要であるとも言われていました。 本を読まないことで読解力がない子どもが多いとのことで、読解力の向上など深く読むことで深く考えることにつながるし、じっくり考えることが必要とも言われていた。一日５分から３０分本を読む子は読解力が高いとの結果がでているという。 家に本が多くある子はよく読んでいるようで、親自体がしっかり本を読むことが大事であると思った。小さい頃の本の読み聞かせは、大人と子どもの愛情の行為であり、子どもからすれば愛されていることの喜びがあるとも言われていた。確かに小さいころから本に親しむきっかけになっていると思う。 また、ふるさと納税の非常に多い自治体は、市民の図書館が超立派であると言われていたが、確かにそうであると感じた。加東市のこの条例を推進するとともに、今後多くの方に本を読むきっかけになればと思いますし、全国から多くのふるさと納税をして頂いて、全国に名をとどろかせる図書館をつくれればいいなと思った研修であった。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員　髙　瀬　俊　介

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「読書の実態および読書教育の動向」 講　師：姫路大学教育学部こども未来学科 教授 長 谷 浩 也 氏
日　時	令和７年１１月４日（火）　午後１時３０分～
場　所	加東市役所　第１委員会室
研修の感想	今回の研修を受け、私はあまり読書をしてこなかったので先生の話を聞き、読書の必要性を身にしみて感じたところです。また、最近の高校・大学入試においても長文の文章を読み、解答をみちびく問題も多く、読書教育の大切さ及び必要性を改めて感じました。最後に読書活動の推進に関する条例に触れられましたが、先生自身、条例は専門ではないが私見として聞かせていただきました。子どもだけでなく大人も、身近に本に親しむことは、想像力を養い、より豊かな知見を得られ、よりよい暮らしにつながると考える。 本市においても、他市の条例を大いに参考にしたい。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員　松　本　美和子

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「読書の実態および読書教育の動向」 講　師：姫路大学教育学部こども未来学科 教授 長 谷 浩 也 氏
日　時	令和７年１１月４日（火）　午後１時３０分～
場　所	加東市役所　第１委員会室
研修の感想	はじめに・美作市立湯郷こども園　くつろげる読書スペース ・南あわじ市立　福良小学校　ソファー、ヨギボー、木をテーブルに椅子にもなる。 ・那覇市小学校　玄関に丸いテーブルとイスがあり、下校時なども読書を楽しめる。 ・西脇市では県内初の「読書通帳」を導入するなど、全国の学校の図書スペースの活用の仕方、お金がなくても工夫している様子を写真などで具体的に教えていただきました。 現在の課題として、スマホの時間が多いと読書の時間が少なくなる傾向がある。また、読書習慣のきっかけとして、友達がすすめてくれる。家に本がある。保護者が自分の能力を高めるために勉強をすることがあるか、が関連するということでした。 また、深く読むことは、深く考えることにつながる。じっくりものを考える、には、間、待つ時間が大切である。 読書時間と成績の関係として、１日に３０分以上読書をしている児童は成績が高い傾向がある。学習指導要領にも、（７）学校図書館　公共施設の利活用がうたわれている。 家庭でも「読み聞かせをするということは、大人のこどもに対する愛情の行為であり、こどもにすれば、愛されていることの喜びを感じるひと時なのです」という講師先生の言葉がとても印象深く、「人間の声は親が子どもの精神状態を落ち着かせるための最も効果的な行為」幼児期だけでなく学童期に入っても、こどもに読み聞かせをすることの大切さも改めて痛感しました。特に講師先生が、こどもに直接語りかけるときの優しい口調と、こどもの思いをくみとるために、返答するときの話し方が非常に印象的で、普段こどもたちと会話をするときに、私自身も真似していきたいと思い、共感しました。 読書について、深く考えることができ、大変有意義な研修時間でした。ありがとうございました。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員　橋　本　匡　史

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「読書の実態および読書教育の動向」 講　師：姫路大学教育学部こども未来学科 教授 長 谷 浩 也 氏
日　時	令和７年１１月４日（火）　午後１時３０分～
場　所	加東市役所　第１委員会室
研修の感想	今回の研修では、第４次ひょうご子ども読書推進計画（令和２年３月策定）および今年策定された第５次計画について説明を受け、読書は「子どもの豊かな心と想像力を育む基本理念」であることを改めて理解する機会となった。 まず、美作市の湯郷こども園の取り組みとして、子どもが本に親しみ、自然と読書を好きになるよう工夫された環境づくりが紹介された。本棚の配置や部屋の雰囲気づくりなど、園内全体で読書への好奇心を高める実践が印象に残った。 また、那覇市や多可町の図書館の事例紹介もあり、多可町は近いため、ぜひ実際に訪れてみたいと思った。図書館が実施している「読書通帳」など、子どもが図書館に足を運びたくなる仕掛けづくりについても学び、各自治体の工夫が大変参考になった。 不読率の実態については、読書をしない子どもが増加している現状が示され、スマートフォン利用の増加や、家庭での保護者の読書習慣が影響していることも理解した。今後は、家庭での読書啓発の必要性を一層感じた。 学校現場における読書活動の推進については、授業の中で積極的に学校図書館を活用し、読書の習慣化につなげている事例が紹介された。また、多様な子どもへの対応として、ＩＣＴ機器を活用した読書活動や電子書籍の導入など、一人一人のニーズに応じた取り組みが進んでいることが分かった。電子書籍の活用は、これからの読書活動において欠かせない視点であると感じた。 さらに、加東市の読書を推進条例の策定については、子どもから大人まで読書に親しみ、豊かな心を育むきっかけづくりとして重要な意義をもつことを学んだ。 今回紹介された、多可町・三田市・姫路市の図書館についても、今後ぜひ訪問し、実際の取り組みを見てみたいと思う。 本研修を通じて、これまで知らなかった実践や自治体の工夫を多く知ることができ、大変有意義な学びとなった。